

うどのにしいせき 鵜殿西遺跡（第 10 次調査）

6年間に及ぶ発掘調査が終了しました。

一般国道 42 号新宮紀宝道路建設事業に伴い、平成 30 年度から約 6 年間行ってきた鵜殿西遺跡の発掘調査が、令和 5 年 7 月 4 日をもって終了しました。

これまでの鵜殿西遺跡の発掘調査では、鎌倉時代～室町時代の掘立柱建物がある屋敷地と、その屋敷地を区画するために作られた複数の溝が見つかりました。また、江戸時代後半頃の土坑も多数確認されており、鎌倉時代～室町時代を経て、江戸時代に至るまで継続して人々が暮らしていたことがわかっています。

今回行った第 10 次調査では、その屋敷地の中心部分と考えられる範囲を調査しました。調査の結果、掘立柱建物、溝などの多数の遺構が確認されました（写真 1）。

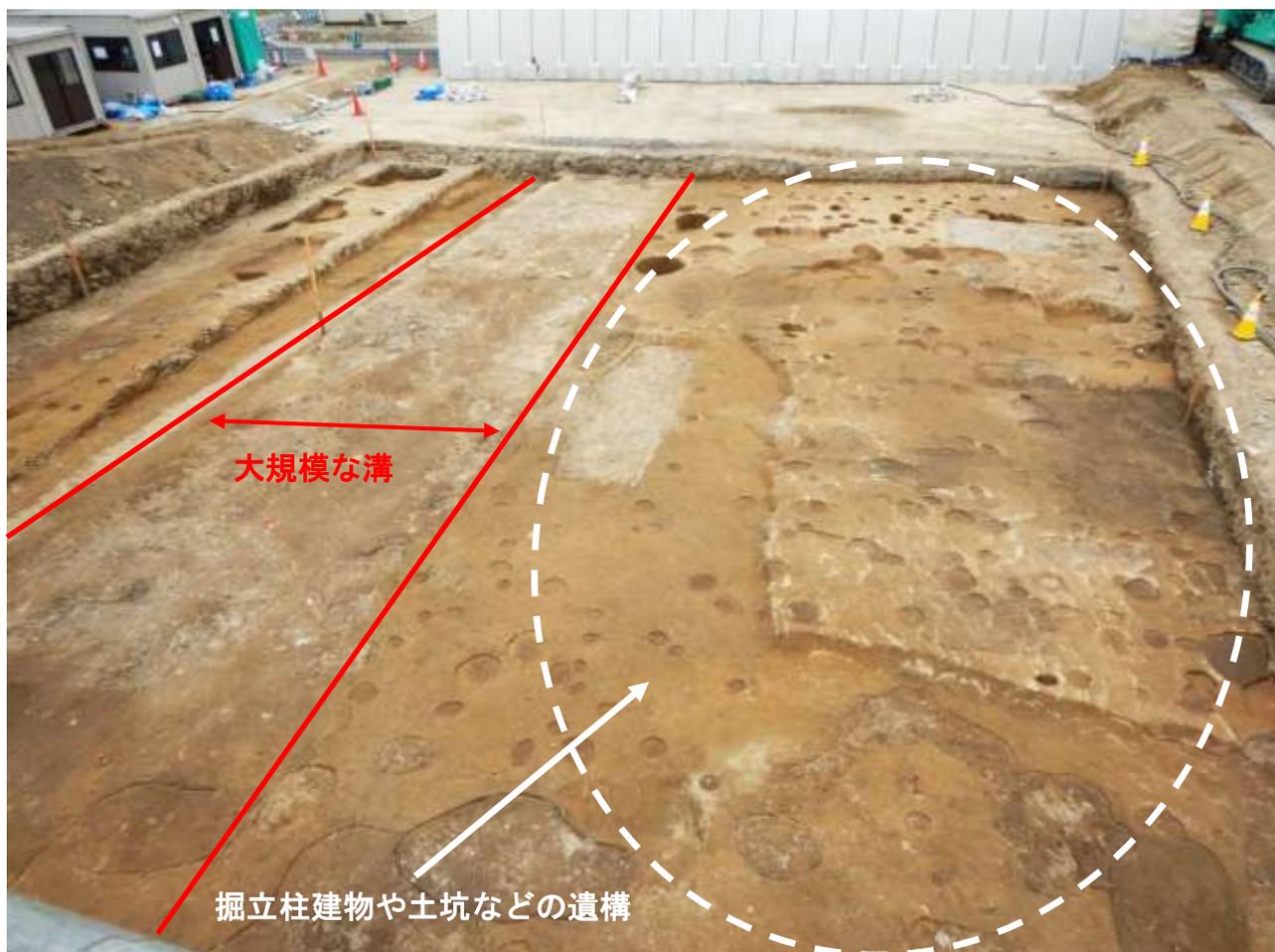


写真 1 第 10 次調査区（遺構検出状況）全景（南東から）

【掘立柱建物】



写真2 最も大きな掘立柱建物（南から）

【溝】



写真3 大規模な溝（南から）



写真4 発掘調査風景（南から）

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター

調査研究2課（担当：渡辺・鐸木）

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

電話：0596-52-7029 FAX：0596-52-7035

掘立柱建物は6棟見つかりました。

このうち最も大きな建物は東西2間（4.0m）以上、南北4間（8.0m）で、調査区外にも広がっていきます（写真2）。

6棟の建物の時期は、各建物の柱穴から出土した遺物から、鎌倉時代～室町時代のものと考えられます。

溝は4条見つかりました。このうちの1条は、昨年度の第7次調査でも見つかっている大規模な溝の一部です（写真3）。

第10次調査では、横幅全体を調査することができ、幅が最大5.5mで、深さが1.5mの溝であることが確定しました。この規模は、鶺殿西遺跡においては最大のものとなります。

溝からは、室町時代の土師器や江戸時代後半頃にかけての陶器・磁器などが出土しており、最終的に埋没した時期は江戸時代後半頃と考えられます。写真2の掘立柱建物等がある屋敷地を区画する目的で作られたものでしょう。

今回行った第10次調査をもって、本道路建設事業に伴う鶺殿西遺跡の発掘調査は全て終了することができました。これまで地元鶺殿区をはじめとする近隣の皆様と関係機関の方々には、ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

今後は、発掘調査報告書の刊行に向けて、これまでの調査成果を整理し、掘立柱建物と溝との関係性や遺跡全体の時期的な変遷を詳細に検討するとともに、中世の鶺殿氏との関連性についても考察していく予定です。